2013年 第24回 読者が選ぶ ネーミング大賞

大賞に「ななつ星in九州」 JR九州

日刊工業新聞社は2013年12月から14年1月17日にかけて、「日刊工業新聞」「メトロガイド」で「2013年 第24回読者が選ぶネーミング大賞」の投票を募集した。読者から1万2101通の投票があった。この結果、JR九州の「ななつ星in九州」が高い支持を得て大賞に選ばれた。生活部門の1位にはキリンビールの「キリン 澄みきり」、ビジネス部門1位には筑水キャニコムの「三輪駆動静香（さんりんくどうしずか）」が選ばれた。さらに、発想力豊かでキラリと光る名称を選考するアイデアネーミング賞、名称が定着してきているといった話題性を評価するブランドネーミング賞、名称がユニークあるいは創意工夫されているユーモアネーミング賞を選定した。

きょう表彰式

〝7〟に込めた意味

JR九州が運行する日本初の豪華クルーズトレイン「ななつ星in九州」は、周遊する九州の魅力をネーミングに込めた。〝7〟が表現するのは九州を構成する7県。またそこで〝星〟のように輝く七つの観光資源「自然、食、温泉、歴史文化、パワースポット、人情、列車」を表した。さらに〝in九州〟を加えたことで、九州の広く深い素晴らしさを世界に広めるとの期待と自負も込めている。

「和のクルーズ」をテーマにした車両は木材をふんだんに使い、新しさと懐かしさを感じさせる。有田焼の人間国宝・故14代酒井田柿右衛門氏をはじめ、伝統職人の手による一流の調度品が随所で乗客を迎える。同時に最先端の客車制御システムなどを搭載。日本の新旧技術の粋を集めた。設計者である工業デザイナーの水戸岡鋭治氏による機能性と遊び心もあちこちにちりばめられ、くつろぎを演出する。

また旅行商品としては3泊4日と1泊2日の各コースで、真心のこもったサービスを提供。訪れる各地で散策や食事、車窓などを通して魅力をあますことなくしかも最上級の形で体験できる。列車自体そして列車の旅を通じて、九州を五感で感じられるクルーズだ。

さらに沿線で住民が手を振り迎えるなど、「ななつ星in九州」はJR九州だけにとどまらず、九州という土地が持つもてなしの心を体現した列車となりつつある。

豪華クルーズトレイン「ななつ星ｉｎ九州」

受賞企業の声

JR九州 鉄道事業本部 クルーズトレイン本部次長 仲 義雄氏

「ななつ星」という名称には、旅人に方角を指し示す北斗七星の意味も含まれている。九州や、この列車に関わる人々にとっての、道しるべにしようと思いを込めた。ありがたいことに各自治体からは「自分たちの列車」「九州の宝」と思っていただいている。列車が通過するだけでも、いかに乗客をもてなすかを考えてくれる。

乗車料金は高価格だが当社は決して富裕層ビジネスをやりたいわけではない。九州に人を呼び込み、鉄道網で人の流動をつくることが目的だ。だが世界から見れば九州の知名度はまだ高くない。そのため世界中で、九州のイメージと「ななつ星」がイコールで結ばれるようになってほしい。

列車は水戸岡鋭治氏のデザインをはじめ、伝統職人の方々により「走る芸術品」となった。一方でサービスは我々の一生懸命さを評価いただいている部分がある。これから世界一の列車だと言われるには列車の素晴らしさだけでなく、我々はその〝一生懸命さ〟を失わず、サービスを磨き続けなければならない。

2013年　第24回　読者が選ぶネーミング大賞受賞名

大賞	ななつ星in九州	豪華クルーズトレイン	JR九州

生活部門				ビジネス部門		
第3のビール	キリン 澄みきり	キリンビール	1位	電動アシスト三輪車	三輪駆動静香	筑水キャニコム
高級食パン	セブンゴールド 金の食パン	セブン&アイHD	2位	農作業用補助具	ごぼう抜き	スナオ電気
高吸水カタオル	1秒タオル	ホットマン	3位	基幹業務ソリューション	FutureStage	日立製作所、日立ソリューションズ、日立システムズ

アイデアネーミング賞		
LED投光器	PIKA	ソディック、ソディックLED
搬送器具	Piece♥Peace パズル	井口機工製作所
電動窓シャッター	ヨコタテ	文化シャッター

ブランドネーミング賞		
保険商品	がんPLUS	住友生命保険
健康管理機能	REALウェルネス	三菱電機

ユーモアネーミング賞		
室内空気清浄器具	さわやかくん	大高商事
しょうゆ風味の万能ソース	しょース	オリバーソース
手洗い用除菌生成装置	超!おててきれい	コガネイ
包装した商品の自動反転機	てまいらず	タカハシ包装センター
乾電池式電動伸縮杖	のび太くん	岩田鉄工所

講評

商品の勢いを決める熱い思い
記憶に残り長い間愛される存在に

丸の内ブランドフォーラム代表 片平（かたひら） 秀貴（ほたか）氏

今年の大賞は「ななつ星in九州」に決まった。JR九州の唐池恒二社長をはじめ関係者の皆さまに心からおめでとうと申し上げたい。この構想は唐池社長の発想になるもので、名前もご自分でおつけになったと聞いている。「ゆふいんの森」「あそぼーい！」「A列車で行こう」などユニークな名前の観光列車も唐池社長のイニシアチブで命名されたという。九州の七つの県を結んで輝こうという「ななつ星」という名前は唐池社長とJR九州の熱いを作ろうという思いは強いが、その良さを社内外に伝え、名前を覚えてもらって長く愛されたいというところには十分な注意を払わないことが多い。ネーミングはそのいい例だ。「ななつ星」のように自分の子供が生まれたときと同じような熱意でネーミングに当たると、その思いは自然と皆に思いが込められていて、まさに今年の大賞にふさわしい。

以前から申し上げていることだが、日本は良いモノ通じる。このようなネーミングに対する熱さという意味ではもうひとり忘れてはいけない方がいる。筑水キャニコムの包行均（かねゆき・ひとし）会長だ。演歌のダジャレに徹した商品名はこの賞で常連だが、今年も「三輪駆動静香（さんりんくどうしずか）」で堂々ビジネス部門1位に輝いた。

「名は人なり」だと思う。同じいい商品でも唐池社長、包行会長のようにそれを世に送り出す人がどのくらい名前に思いを込めるかがその商品の勢いを決め、その結果、長い間愛される存在になるのだと思う。生活部門1位の「キリン 澄みきり」をはじめ今回受賞された全てのネーミングは皆その商品固有の主張が感じられるもので、関係者のご努力に心から敬意を表したい。

ブランドづくりを勉強していると、卓越したモノ、熱きヒト、適切な名前の三つが欠くべからざるものであることを痛感する。特に名前は、たった数文字の中に使い手の感動体験が凝縮されて記憶に残るので、その存在はブランドにとって決定的に重要だ。

最後に、一見「たかが名前」と思われるネーミングの重要性に早い段階で着目し啓蒙（けいもう）を続けている本大賞が今後さらに発展することを祈りたい。